

## 情報公開文書

研究の名称	周産期および産後うつ（心理的苦痛）が子どもの発達に与える影響（エコチル調査）
整理番号	
研究機関の名称	国立大学法人 富山大学
研究責任者	学術研究部医学系・公衆衛生学講座 教授 稲寺 秀邦
研究の概要	<p>【研究対象者】 エコチル調査参加に同意されている方とお子さま約 10 万組</p> <p>【研究の目的・意義】 子どもの成長を阻む要因として産後うつが挙げられます。しかし、出産前後のどの時期のうつが一層悪影響なのか、未だあまり解明されていません。そこで今回、環境省の「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の既存のデータを使って、この点を調査します。これにより、産後うつの悪影響に関する信頼性の高い根拠を得られると考えています。</p> <p>【研究の方法】 出産前からお子さんが 3 歳時点までにご回答いただいた質問票の回答およびカルテから転記した情報を用いて解析します。本研究のために、新たに情報を収集することはありません。</p> <p>【研究期間】 実施許可日～2026 年（令和 8 年）3 月 31 日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 本研究の成果は、関連する学会や学術雑誌で発表されます。 なお本研究の実施に際しては、利用する情報からお名前、住所などの個人情報削除いたします。研究成果の発表においても個人情報は利用しません。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法（他機関への提供の有無）	生後 6 ヶ月から 3 歳までの 6 ヶ月毎の発達状況（日本語版 ASQ-3 質問票）、妊娠中後期および産後 1 年時における心理的苦痛（K6 質問票）、母親の年齢、世帯収入、学歴、婚姻状況、BMI、飲酒習慣、喫煙習慣、受動喫煙の状況、運動習慣、分娩歴、精神疾患の既往歴、身体疾患の既往歴、仕事の有無、葉酸や魚の摂取量、母の自閉傾向、ソーシャルサポート、分娩様式、子どもの性別、妊娠週数、出生体重、アプガースコア、先天異常の有無、栄養方法、ストレスイベントの有無、保育施設利用、夜泣き、仕事への復帰、など
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学 学術研究部医学系・公衆衛生学講座 教授 稲寺 秀邦
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	富山大学 学術研究部医学系・公衆衛生学講座 教授 稲寺 秀邦
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話：076（434）7279      FAX：076（434）5023</p> <p>e-mail：kmatsumu@med.u-toyama.ac.jp</p> <p>富山大学 学術研究部医学系・公衆衛生学講座 講師 松村 健太</p>